

～開催Report～



休眠預金活用事業

公益社団法人 東京社会福祉士会 立ち直りを支える
地域支援ネットワークづくり事業部 杉並支部

(略称：立ち直り杉並)

E-mail:tachinaori.suginami@gmail.com

3/16 (土) キックオフイベント (於：阿佐ヶ谷地域区民センター)

2024年3月16日(土) 13時より、杉並区阿佐ヶ谷地域区民センター第3集会室にて、「立ち直り杉並」のキックオフイベントを行いました。本事業は、JANPIA(日本民間公益活動連携機構)の公募のもと、日本更生保護協会が資金配分団体として助成を受け、その実行団体である東京社会福祉士会の「立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業部」の杉並支部(略称：立ち直り杉並)が主催しました。

「立ち直り杉並」のメンバーは杉並社会福祉士会の有志で、皆、独立型社会福祉士、行政職、福祉職、一般企業などでの仕事を持ちながら活動を始めました。

本事業は2026年3月までの休眠預金事業ですが、息の長い支援、ソーシャルアクションを目指して取り組んでおり、その初回イベントとして地域で「立ち直り支援」「刑余者(罪を犯した過去のある人)が再犯することなく地域で生活していけることへの支援」「生きづらさを抱える人の支援」を行っている方や、本事業に興味のある方を対象に開催しました。

開会に先駆けて、「立ち直り杉並」の市川支部長より、事業の説明と今後のネットワークづくりへの意気込み、そしてご参加の皆さんへの御礼のご挨拶をいたしました。

講演は「再犯防止を取り巻く状況」と「矯正施設での取組紹介」「地方公共団体及び民間団体との連携」「地域連携ネットワークの構築について」の4つのテーマでお話があり皆さん、お配りした資料にメモを取りながら熱心に聞かれています。



大橋副支部長の講演

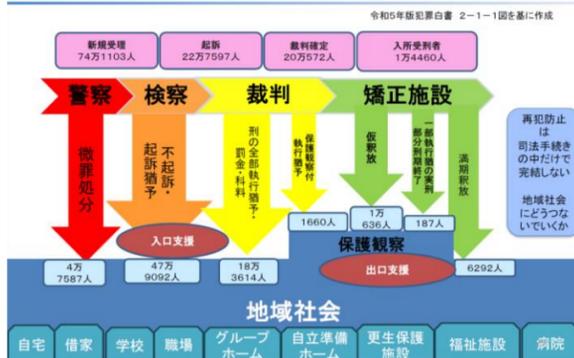
【「再犯防止」を取り巻く状況】

近年、再犯率は一貫して増加を続けており「約3割の再犯者によって約6割の犯罪が行われている」とされています。ゆえに、市民が安全・安心に暮らせる地域社会を構築する上で、犯罪や非行をした人が再犯に陥らないよう防止することが重要なのです。受刑者の状況としては、高齢者や精神障害を有する方、被虐待経験のある少年など、社会的弱者や生きづらさを抱える方々の割合が年々増加しており、そうした方への支援について、国や自治体は再犯防止推進計画において様々な施策を立てています。

【矯正施設での取組紹介】

国の機関である刑務所や少年院等の矯正施設においては、入所中から就労支援などを行っています。また若年者に対しては教育の機会に力を入れています。刑罰を与えるだけでなく社会復帰を後押しできるような処遇を充実させているのです。社会福祉士などの資格を有する職員の配置など職員体制も手厚くしています。

▶ 刑事司法手続き後に地域に戻るイメージ



大橋副支部長講演資料より

【地方公共団体及び民間団体との連携】

地域に開かれた矯正を目指し、地域と連携していくことも大切です。「農福連携」「刑務所での作業や職業訓練を通じての地方創生」「地域と連携した防災対策」も行っています。旧網走刑務所の建物が「北海道開拓と監獄受刑者」をテーマとした野外歴史博物館という観光資源として地域に活用されていることは有名ですが、民間と連携した矯正施設の資源の更なる活用法も模索中です。

【地域連携ネットワークの構築について】

犯罪を犯した人は様々な手続きと処遇によって地域に戻ってきます。裁判前の「入口支援」と矯正施設から出た後の「出口支援」では、専門職だけでなく地域の皆さんの支援も大きな役割を果たしています。当事者の抱える課題は、仕事、住まい、高齢、障害、教育等様々で複雑に絡み合っているため、より多くの方の連携やネットワークが大切です。

犯罪の繰り返しを防ぐためには、地域社会における「息の長い」支援が必要です。犯罪をした者等の立ち直り・再犯防止については、国や自治体だけでなく地域にお住いの皆さんの理解やご支援はとても大切な力となっています。



佐久間副支部長より活動レポート

第1部の後半は、会計担当の白井氏より、立ち直り支援に取り組むようになっての気づき、モヤモヤしていること、地域でできる刑余者支援についてのレポートを発表。東京社会福祉士会が纏めた社会福祉士の「犯罪や非行をした人たちに対する支援経験等に関する調査報告」のデータも交えてお話し、その後、副会長の佐久間氏より、「再犯防止サポーターズ交流会」や「更生保護施設見学会」参加の活動報告を行いました。



市川支部長より開会のご挨拶

その後「第1部」として、副支部長でもあり、法務省東京矯正管区更生支援企画課第二係長の大橋氏より「生きづらさを抱える人々の立ち直り支援～再犯防止・更生支援施策の現状と地域連携の課題～」についての講演がありました。

～ご参加の皆さんの声～



休眠預金活用事業

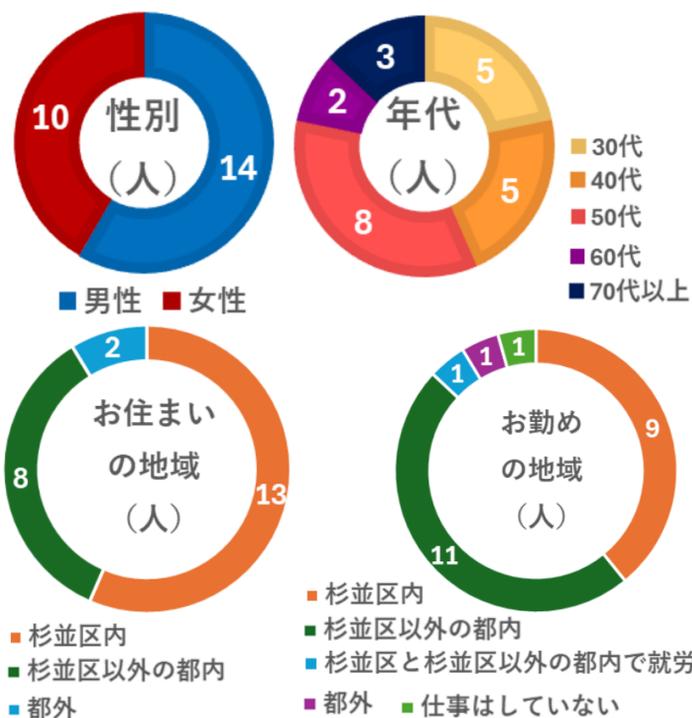
公益社団法人 東京社会福祉士会 立ち直りを支える
地域支援ネットワークづくり事業部 杉並支部 (略称：立ち直り杉並)

E-mail:tachinaori.suginami@gmail.com

3/16 (土) キックオフイベント (於：阿佐ヶ谷地域区民センター)

「立ち直り杉並」のキックオフイベントには、社会福祉士、保護司、司法書士、介護福祉士、更生保護女性会員など様々な方にご参加いただきました。更生保護や立ち直り支援、福祉に携わっていない方にもご参加いただき本取り組みに興味関心いただいたことも大変有難いことです。

【ご参加の皆さんの属性】



また、杉並区在住、在勤の方を中心にご参加いただきました。区内外の介護事業所、障害者支援施設、学校、社会福祉協議会、一般企業など様々な分野でご活動ご活躍の方々です。

「立ち直り支援事業」は現在、都内10地区の支部が設立（準備中含む）されていますが、近隣支部の方々にもご参加いただき、閉会後の「お茶会」では互いの情報共有も行われました。「杉並支部」として立ち上げましたが、対象者への支援は地域を超えてのネットワークも必要です。そのネットワークづくりの第一歩として、「第2部」では、ご参加の皆さんに自己紹介を兼ねて「立ち直り支援」「生きづらさを抱える方への支援」についての取り組みや思いをお話いただきました。刑余者支援を専門としていなくても「権利擁護」や「生活保護」「障害者支援」など福祉の様々な場面に於いて、実は過去に犯罪を犯したことのある方の支援につながっていた、という声もお聞きしました。

地域のお祭りを企画している方からは「矯正展」の出店アイデアをいただいたり、保護司さんからは対象者にはまずは、「あなたが幸せになってもらいたい」とお話しすることから始めているという愛情豊かで温かいお言葉をいただきました。

一方で、「生きているのが嫌になった」と言われてしまい相談が継続しない、対象者は精神障害とのグレーゾーンを感じる人が多い、といった支援の悩みや課題をお聞きすることもできました。ご参加の皆さんからのリアルな声は私たちの次のアクションにも繋がります。

参加者アンケートからは、「刑余者支援」「生きづらさを抱える人の支援」とも約半数の方が経験されていました。中でも7人の方が「刑余者支援」と「生きづらさを抱える人の支援」両方をご経験でした。

【ご参加者の皆さんの支援経験】



また「制度や事業の趣旨が良くわかった」「データを見ることによって現状を把握できた」「様々な方が（立ち直り支援に）関わっていると知ることができた」と評価いただいた一方、「車座になってもっと皆さんのお話を聞きたかった」「具体的な事例や経験談を語り合いたかった」「グループワークがしたかった」といったお声も聞き今後は皆さんとの対話形式・参加型のイベント

を考えていきたいと思えます。

東京社会福祉士会の本事業部の方からは「応援する人を増やす広報活動も大事」「地域をより活性化していただきたい」とお話しいただき、日本更生保護協会から参加いただいた方には「本事業はいろんなことに休眠預金の助成金を活用出来る。皆さんのアイデアをアクションにしてほしい」とエールをいただきました。

閉会および講評を前杉並社会福祉士会副会長からお話しいただき「実務においても関りを感じることもあり、他人ごとと捉えないで情報アンテナを貼っておくことが大切」と地域で意識や関心を高めることにつながるお言葉をいただきました。

閉会後は、近隣の飲食店にて希望者を募って「お茶会」を実施し、スタッフ含めて17人が参加、2時間あまり情報交換、意見交換を行いネットワークづくりの一步となるような懇親を深める場となりました。

【キックオフイベントチラシ・概要】

立ち直りを支える地域支援・杉並 キックオフミーティング

2024年 3月16日(土) 13:00-15:00 (開場・受付12:30～)

会場 阿佐ヶ谷地域区民センター 第3集会所

第1部 13:10～13:40
講演「生きづらさを抱える人々の立ち直り支援 再犯防止・更生支援施策の現状と地域連携の課題」
講師 法務省 東京矯正管区 更生支援企画課 更生支援企画第二係長 大橋 由美子

第2部 14:00～14:50
意見交換「手を繋ぎみんなで社会資源になろう」
参加者の皆様の活動内容を共有し、杉並に向け立ち直り支援について、今後課題とネットワーク作りに向けた取り組みについて話し合います。

お申し込みは事務局にてお受けいたします。

主催 お問い合わせ
東京社会福祉士会 立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業部 杉並支部 (略称：立ち直り杉並)
E-mail:tachinaori.suginami@gmail.com

【立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業 とは】

目的
・罪を犯した過去を持つ人たちが悩み事や困りごとを抱えることなく、必要な社会資源につながりながら、安心して社会生活を送れるような、地域における支援のネットワークを構築すること。
それによって、結果として、誰一人取り残さない「地域共生社会」の実現へ一歩でも歩みを進めること。

概要・具体的な取り組み
・地域において人と人、人と組織、組織と組織をつなぐネットワークを築く
・実際の支援に必要とされる知識・情報が広くいきわたるよう研修(セミナー、勉強会など)を実施する
・出所後支援のコーディネートや社会資源とのマッチングなどに取り組む

以上の事業を東京社会福祉士会では、2023年度から2025年度まで、休眠預金を活用した、日本更生保護協会を資金分配団体とする資金の助成を受け、「立ち直りを支える地域支援ネットワークづくり事業」の実践と促進を行うことになり、私たちは「杉並支部」(略称：立ち直り杉並)として活動しています。